

平成30年 11月 名古屋市議会定例会 議事日程

平成30年11月28日(水曜日)午前10時開議(給食部分)

◆(横井利明君)

次に、小学校の給食のあり方についてお尋ねいたします。

名古屋市の給食費保護者負担額は月3,800円と政令市中最低額。しかし、この10年で消費税増税や食材高騰が相次ぎ、米や小麦などの主食や牛乳の価格が上昇しているため、おかずを購入する費用が減少、つまり安価な食材を使用するなど、おかずを質素にして乗り切っている。一例として、豚カツはコロッケに、牛肉は豚肉に、エビフライは魚のてんぷらに、平成21年度には6回実施したエビフライ・ヒレカツは平成29年度には1回に減らされています。また、デザートは年間83回から49回に減少、食材費が安い切り干し大根は5回から12回に、同様に高野豆腐は2回から12回にふえている。なお、仮に平成21年度並みの献立に戻すためには月400円の値上げが必要になる。

これは、有識者やPTA関係者等で構成された名古屋市学校給食のあり方懇談会に参加したPTAの方からいただいた資料の一部です。

名古屋市立小学校の学校給食は、学校給食法に基づき、必要経費の半分以上を占める人件費や光熱費などを市が負担し、食材費のみを保護者が給食費として支払う仕組みとなっております。

食品への安心・安全への関心が高まっていることから、食材検査や産地情報を確認したり、食材の国産率を80%以上とするなど、国の基準で決められた栄養価や食品構成を維持しなければならない決まりの一方で、名古屋市は相次ぐ食材価格の高騰により献立に大変苦慮しております。

献立を工夫したりして乗り切ってきたものの、基準を維持するのが精いっぱい状況であり、また、消費税増税分も名古屋市がのみ込んでしまったことから、冒頭の説明のとおり、おかずの質の低下につながっているのであります。

先般、PTAの方々や学校給食のあり方について懇談を行ったところ、食材高騰のしわ寄せを受け、安い食材に給食献立がシフトするのはかわいそうだ、朝食を食べない子供が多い中、子供の成長にとって給食の役割は非常に大きく、食材の制約の多い現状は好ましくない、給食費の値上げもやむを得ないとの声もいただいております。

一方で、厳しい生活状況が続く家庭も少なくない中、教育委員会が給食費の値上げに慎重であるのも理解できるとの意見もPTAの方からいただいているところでございます。

さて、学校給食のあり方懇談会に参加した保護者の方々から、さまざまな意見が出されております。

まず、給食の充実については、値上げはやむを得ない、子供たちにはいろんな食材から栄養をとってほしい、値上げはやむを得ないがさまざまな家庭があるので考慮してほしい、家庭では食事ができない子供もいるので十分な栄養を給食で与えてほしいなどでした。

次に、保護者負担についても意見が出されています。

給食費の無償化は難しいが、4月は学校現場が繁忙なので、1カ月分だけでも無償化されれば教職員の負担軽減につながる、保護者にとっても4月は教材費など負担が必要となるので、4月分の無償化が一番よい。

そこで、質問いたします。平成31年10月には消費税がさらに値上げされ、10%となります。今以上に食材費の負担が重くなることが懸念されます。

また、ここ数年、食材費は年々値上がりが続けていることから、来年度さらに安価な食材を使用する必要がある可能性が高く、子供たちの給食はますます質素にならざるを得ない状況です。

一方で、保護者負担についても容認の声がある一方で、さまざまな家庭にも配慮してほしいとの声もあります。

その中で岡崎市では、平成28年度から進学、進級により保護者の支出が多くなる年度当初の負担軽減のため、小中学生を対象に4月分の給食費を無償化しています。もちろん新年度における教師の多忙化の解消にもつながると思います。

この点を踏まえ、教育長は給食の充実や保護者負担など学校給食のあり方についていかがお考えか、お尋ねいたします。

◎教育長（杉崎正美君） 教育委員会に対しまして、小学校給食のあり方についてお尋ねをいただきました。

本市の学校給食のあり方につきましては、近年の食材価格高騰などの給食運営に関する課題等に対応するため、検討を行っているところでございます。

このたび、本市の学校給食に対する有識者の意見を伺う場として、学識経験者や保護者、学校関係者で構成する名古屋市学校給食のあり方懇談会を開催し、主に小学校給食における給食内容の充実や給食費に係る保護者負担の軽減など幅広く意見をいただいたところでございます。

議員御指摘のとおり、懇談会では、給食の充実のためには給食費の値上げもやむを得ないのではないか、一方で、さまざまな事情の家庭もあるので、そのことも考慮していただければといった御意見もございました。

また、岡崎市の公費負担による4月分の給食費無償化の取り組みにつきましては、保護者や教職員の負担軽減の観点からも効果があるのではないかと御意見をいただいております。

今後は、懇談会でいただいたさまざまな御意見を参考に、給食内容の充実や保護者負担などについて検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆（横井利明君） それぞれ御答弁をいただきました。

最後に、河村市長さん、まだきょう何も発言がないようですがーありましたっけ、あ

りましたね、聞いてなかっただけでごめんなさい。最後に小学校給食のあり方について河村市長さんにお尋ねいたします。

給食費を 3,800 円に据え置いた、これ政令市最低で、保護者にとっては本当ありがたいことだというふうに思います。

しかし、一方で、消費税の増税が 5%から 8%もあった、景気の拡大でどんどん今食材、米から小麦から牛乳からおかずからどんどん値段が上がっている。結果として子供たちはしょっちゅう切り干し大根や高野豆腐、これを食べているという状況にあると。まさにこの名古屋の学校給食の状況を私は本当に涙するような思いで聞いておりました。PTA の皆さんも、子供がかわいそうとかエビフライや豚カツも食べさせてくれ、デザートも出してくれというような要望もたくさんいただいております。

そして、市長さん、来年 10 月には消費税がまた 8%から 10%に上がる。そうするとこれ、さらにまた切り干し大根と高野豆腐の割合がどんどんふえてくるということになるだろうというふうに思っておりますけれども、まさにこれ、対策は待ったなしですよ。

子供たちが再び笑顔を取り戻すような学校給食を取り戻すために市長さんとしてどのような思いなのか、お尋ねいたします。

◎市長（河村たかし君） 今のここでのお尋ねでございますけど、きのう議論をしておいて、まず食材が値上がりしておる分もありますけど、例えば、ドラッグストアとスーパーの地獄の戦いだとか、非常に下がっておる部分もあるもんで、一遍食材の収入というか、買う経路ですね、これ、ちゃんと一遍全部出してくれと、教えてちょうということを教育長にまず言いました。

公正な競争はやっぱりしてもらわないかぬもんだで、ようありがちな話だけど、何となく高いところから買っておらせぬかというのをまずちょっと調べたいと思います。

それから、この間、名古屋飯の給食を始めまして、あれも数億円かかっておりましてね。あれはあれで喜んでいただいておりますけれども。まあ、それを一応ちょっと調べさせていただいて、単純に値上げするというのはやっぱり収入の低い人に気の毒だし、そこら辺はちょっとようデリケートに考えないかぬなどは思いますけど。

ちょっと一遍、食品の入手の合理性をちょっとチェックさせていただきます。

高野豆腐か切り干し大根ばかりではいかぬもんだで、この辺は考えたいと思いますけど、あつたきやあふうにせないかぬもんでね、これ。単純な値上げというのはあんまりおもしろくないなどは思っておりますけど、わしは。